

上宮寺通信

第七十九号

お彼岸に思う

強い寒気のため各地で大雪の被害が出た今年の冬。しかし、春はまもなくです。日差しのぬくもりに誘われるように、草花のかたいつぼみが膨らみ、色とりどりの花が咲きはじめます。春は生命が生き生きと輝き始める季節でもあります。

今月は「自然をたたえ、生命をいづくしむ」ことを趣旨とした「春分の日」がありますが、その日を境に前後3日間が仏教の大切な行事である「お彼岸」になります。

彼岸とは阿弥陀仏のおられる浄土を指します。ふだんの生活で仏様のことをすっかり忘れてしまっている私です。しかし、

仏様は私のことを忘れてはいません。せめてこの時だけは仏様のことを思い、仏様の願いを考へる。そんな期間がお彼岸ともいえると思います。

そして仏様同様に私たちがふだんの生活で忘れてしまっているのは「いのち」です。

私たちは様々な関係性の中を生きています。その中でついつい地位や財力などでその関係性に優劣をつけてしまいます。しかし「いのち」という視点に立てば人はみな平等です。私の「いのち」と同様に大切な「いのち」を他の人も生きています。

また、それは人間に限られることではありません。生きとし生けるものすべてが同じように平等で大切な「いのち」を生き

ているのです。

自分の「いのち」を大切に思うことができれば他の人や生き物の「いのち」も大切に思うことができ。逆に他の人や生き物の「いのち」を大切に思うことができない人は自分の「いのち」も大切に思えないのです。

そんな「いのち」の尊さ、大切さに気づいてほしいと仏様は私たちに願っていられます。

こんな言葉があります。

「闇の夜の月の光のありがたさはわかるけど 太陽の光は大きすぎてわからない
雨の日の傘のありがたさはわかるけど 屋根のご恩は大きすぎてわからない」

闇夜に月の光が差し込むと足

元を照らしてくれてありがたいと思えます。雨の日に傘があるとありがたいと思えます。しかし、昼間に太陽の光があるのは当たり前。屋根の下では雨風がしのげるのは当たり前。目の前の小さなことには感謝できても、大きすぎるご恩に気づくことはなかなかできないのが私です。太陽のような、屋根のような仏様のご恩をいま一度確かめさせていただくのが「お彼岸」なのです。



◆行事案内

3月8日(土)

春のお彼岸・永代経法要

時間：午前10時～

法要 引き継ぎ 法話

(正午頃終了予定)

法話：林 祥真師(一宮市禮讃寺)

※午後の法要、お斎、呈茶はございません。

※お持ち帰り用の軽食を用意いたしません。

○ホームページ、公式LINEもよろしく願います。



ホームページ



公式LINE

◆話題あれこれ

○「春のお彼岸・永代経法要」を3月8日(土)に勤めます。暖かくなってきていると思いますが、本堂は足元が冷えまますので防寒対策もお願いします。皆様のご参詣をお待ちしております。

○4月1日(火)～5日(土)まで京都・東本願寺で「春の法要」が勤まります。それにあわせて様々な行事も行われます。桜も見ごろの京都に行かれる際は東本願寺にもお立ち寄りください。詳細は宗派ホームページでご確認ください。

○4月16日(水)午後5時から、名古屋東照宮にて舞樂が行われます。徳川家康公の命日の前夜祭として奉納される舞樂ですが、住職も演奏者として出させていただけます。ただ、少雨でも中止となりますので天気が良くなることを祈るばかりです。

○花粉症の人にとっては辛い季節です。体調管理には十分お気をつけください。



【雑感】

プロ野球はいよいよ今月末からシーズン開幕です。ドラゴンズも井上新監督のもと充実したキャンプを送れたようで、主力選手が抜けた穴をなんとか若手で埋めてほしいものです。また今シーズンは積極的に外国人選手の補強をしました。彼らが日本の野球に慣れ力を発揮してくればかなり上位に行けるのではないのでしょうか。ただ外国人選手はシーズンが始まってみるとわからないことが多々あります。誰とは言いませんが目も当てられないという状況にならないことを祈ります。

(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和三十九年(丁)自十九番十五号

☎052-871-0547